

議会活動・研修

地域活性化特別委員会

委員長 今元直寛

住みたい田舎への視察



戴星学園を授業見学

雑誌「いなか暮らしの本」で住みたい田舎一位に選ばれた大分県宇佐市、豊後高田市を視察した。

宇佐市は「宇佐八幡宮」で知られ、人口5万6千人の地方都市である。同市は全国でもいち早くグリーンツーリズム（農家に宿泊し、農業体験を行う）事業に取り組んで、多くのリピーターを通じ、都会と田舎の情報交換が盛んに行われている。受け入れ農家は約100軒で、経済効

果は年間1億円を超えている。豊後高田市は人口約2万3千人、国東半島に位置している。

同市ではかつて、小中学生の学力が県下でワースト1、2位であった。危機感を覚えた市では、生徒の学力向上のため「学びの21世紀塾」（市営の学習塾）を開設、また遠隔地の学童にはCATVを利用した「テレビ寺子屋塾」を放映している。現在では県内でもトップの成績を誇っている。今日では小中学生の6割にあたる約1千人がこの補習授業を受けている。小中一貫校「戴星学園」もある。ここでは一つの職員室で小中の教員が一緒に仕事をしており、特徴のある授業として小学校一年生から、外国人講師による英語教育が毎日行われている。

これらの教育方針が評判を呼び、地区外からの転入が増加している。この研修を通して、子育て世代の人を呼び込むには、島の自然や伝統、豊富な人材を生かした、島独自の優れた教育環境の構築が重要であると痛感した。

防災対策特別委員会

委員長 尾元 武

「自助」こそ減災の要

徳島県松茂町は、吉野川河口の三角州で形成された町で、人口は15,457人、面積は13.54km²、海抜1m程度の低地の町である。津波発生時には、甚大な被害が想定される町で、南海トラフ地震防災対策推進地域及び特別指定地域に指定されている。このような厳しい条件の町に赴き、印象に残った結論は、「大切なのは『自助』である。いかにわが身を守るかが減災に繋がる大きなポイント」ということであった。

町は、減災対策の補助制度として家具転倒防止対策及び防災用品購入に対し、一定の補助を行い、防災訓練が行われていない地域では職員が支援員として参加し、防災訓練を実施している。また自主防災組織の避難する際の要支援者名簿の作成については、本人から申請の形をとり公表の承諾を頂き、自主性を

求めている。

松茂町津波防災センターは、津波が抜け通るピロティ構造で震度5弱を感じればドアロックは解除され、避難が可能となる。備蓄も万全で避難場所の間仕切りも工夫された三階建ての建物であった。また、徳島県立防災センターでは地震の歴史、メカニズム等を学び、AED救命訓練では体験を通し実際に使用する際の諸注意事項を学習した。

この度の視察研修を活かし本町の防災活動にも提言していきたい。



松茂町視察